



あさひ

令和5年11月
学校だより



横浜市立旭小学校 SINCE 1901

体験的な学習で身に付ける力とは【続編】 校長 益子 照正

ついひと月前までは夏のような暑さが残っていましたが、一気に秋がやってきたような朝夕の涼しさに驚きを覚えます。夏休み明けから年末までの第2シーズン、早くも折り返しを迎えました。過ごしやすい季節になり、あさひっ子の元気も際立ってきました。

さて、9月の6年生の片品宿泊体験学習に引き続き、10月16日・17日の2日間で、4年生の野島宿泊体験学習に同行してきました。昨年度より、4～6年生の宿泊を伴う体験学習を、夏休み明けに設定しました。宿泊体験学習によって学年集団としての学びを充実させ、「関わる力」を育成するための中心に据えるためです。学級集団づくりについては春先から夏季休業までに重点化して進め、その発展として捉える構造として位置づけています。

つまり、この4年生の宿泊体験学習が、小学校生活における宿泊体験学習の入門編にあたり、6年生までの3年間で、系統的にあさひっ子の資質・能力を育てていこうとしているのです。

集大成となる6年生の姿については、先月号でお伝えしました。今月号では、その姿につながる4年生の様子をお伝えします。



写真は左から 第1日:こども宇宙科学館見学 → 野島公園散策 → 第2日:金沢動物園見学 → 第1日夜の キャンドルファイヤー

子どもにとっては初めての体験学習ですから、みんなでいっしょに行動することが安心につながるかもしれません。しかし、あえて小グループによる活動を取り入れていることを、写真をご覧いただいお感じになったでしょうか。初日は、こども宇宙科学館内を、グループごとの計画で見学します。移動後の野島公園内散策も同様です。2日目は、移動を除くほぼすべての活動場所が金沢動物園ですが、その見学計画をグループごとに行うのです。「私はここに行きたい」、「ぼくはこれを見学したい」という願いもある中で、互いの希望を出し合い、話し合っひとつの行動計画を導くことに力点を置いていることがわかりいただけるでしょうか。すべてのグループの様子を見届けたわけではありませんが、あるグループのそばにいた際、こんなシーンに出会いました。野島公園散策中に、展望台に向かうために300段ほどの階段を登らなければならないのですが、途中で疲れ切ってしまった仲間に「休憩しようか?」と声をかけたり、坂道で背中を押してあげたりする姿があったのです。みんなで話し合っ決めたからこそ、こんな姿が自然に表出されたのでしょう。

もちろん、「関わる力」は小集団だけで育つ性質のものではありません。前述しましたように、学年集団を豊かにするために、キャンドルファイヤーを取り入れています。このプログラムは、学年から選出された実行委員の主導による計画で行われたのですが、学年のみんながその趣旨を理解し、協力し合っ創り上げたひとつの作品でした。誰の心にも残る感動的な内容であったことをご報告いたします。

この話にはさらに続きがあります。先週、この4年生がスマフレでペアを組んでいる2年生との遠足があり、私も目的地の三ツ池公園に同行しました。2年生をリードし、慮る姿が各グループ、随所にみられました。担任によれば、「野島のときよりも疲れた」と語っていたそうです。ひとつの体験での学びが次の学習に活かされた場面でした。

次は5年生の出番、御殿場体験学習です。同行する副校長が次号でその様子をお伝えします。どうぞ、ご期待ください。

★国際教室を紹介します★

横浜市立学校では、海外から編入した外国人児童(生徒)の学校教育への適応促進、個性の維持伸長を図るために、日本語指導の必要な児童が一校に5名以上在籍すると1名の専任教員によって指導する体制が確保されます。これを「国際教室」と呼び、当該児童の日本語指導や教科指導、生活適応指導などを行います。

本校においては、この4月にこの条件を満たしたことから、今年度より国際教室を設置し、複数の児童が少人数で学んでいます。教室はB棟2階です。どうぞ、お越しの際にご参観ください。

